

令和 8 年度 学力向上全体計画

学校名	墨田区立柳島小学校
校長名	根尾 智子

1 本校の学力に関する状況

(1) 墨田区学習状況調査結果から

成 果	課 題
同一集団による経年比較が可能な第 3 学年から第 6 学年について、本校と全国の平均正答率との差を見ると、第 3 学年から第 5 学年の全教科及び第 6 学年の国語・算数において、改善傾向が見られた。	第 6 学年の同一集団の経年比較において、社会・理科については校内平均正答率が全国平均を下回った。また、算数は、平均正答率は向上したものの、全国平均を下回っている。

(2) 意識調査結果から

成 果	課 題
・第 4 学年では、「いじめのサイン」の値が 2 ～ 4 ポイントプラス、「学級環境」の値も全学級でプラスとなった。 ・第 5 学年では、「対話・話し合い」の値が 3 ～ 6 ポイントプラスとなった。	・第 3 学年では、「規範意識」の値が 6 ポイントマイナスとなった。 ・第 6 学年では、学級による差が激しく、「規範意識」の値が 1 組ではマイナス 6 ポイント、2・3 組ではプラス 4 ～ 6 ポイントとなった。 ・第 5 学年：「社会参画」の値がマイナス 2 ～ 3 ポイントとなった。

(3) 墨田区学習状況調査や意識調査以外から明らかになっている学習に関する状況

成 果	課 題
算数「東京ベーシックドリル」の同一学年比較では、全学年で満点者の割合が増加し、第 3 学年から第 5 学年の平均正答率も向上した。 同一集団による経年比較においても、第 4 学年の平均正答率が前年度を上回った。	算数「東京ベーシックドリル」の同一学年比較では、第 6 学年の平均正答率に低下が見られた。また、同一集団による経年比較においては、第 5 学年及び第 6 学年の平均正答率に低下が見られた。

2 本年度の学力向上に関する主な取組

(1)「協働的な学び」に重点を置いた、日々の授業づくり

本校では、昨年度までの2年間、算数科を中心とした校内研究において、協働的な学びの一つである「関わり合い」に重点を置き、日々の授業づくりについて研究を進めてきた。特に、児童が日常的に、いつでも・どこでも・自ら進んで「対話による関わり合い」を行えるようにするための指導や支援の在り方について重点的に研究してきた。

具体的には、意見交換の場を意図的に設定したり、ロイロノートを活用して互いの考えを共有したりするなどの実践を行った。また、理解した児童が理解に困難を抱える児童に説明する時間も取り入れてきた。これらの取組は、学力下位層の児童の理解を支えるだけでなく、理解した児童にとっても、相手の考えを聞きながらヒントを考える力や論理的に説明する力、さらに知識を再構成する力を育む機会となり、学力向上につながった。

今年度は、これまでの研究成果を生かしながら、引き続き「協働的な学び」に重点を置き、算数科のみならず他教科においても「対話による関わり合い」を意識した授業づくりを推進していく。児童一人一人が主体的に学び、互いに学び合うことのできる学習環境の充実を図っていく。

(2)「個別最適な学び」を意識した取り組み

個別最適な学びを実現するために、算数の適用問題において量と質の両面から個に応じた学習を行う。

量の観点では、例えば適用問題が8問ある場合、まずは全員が4問に取り組む。その後、理解が進んでいる児童には残りの問題に挑戦させるとともに、発展問題や補充問題を用意し、児童自身が必要に応じて選択して取り組めるようにする。質の観点では、提示された適用問題の数値や条件を児童自身が変更し、新たな問題を作成して解く活動を取り入れる。これにより、学習内容への理解を深めるとともに、自ら課題を設定し解決する力の育成を図る。

また、各教科ミライシードのAIドリルを活用することで、一人一人の理解度に応じた問題に取り組みせ、苦手な内容を重点的に学習しながら、既習事項の定着をそれぞれのペースで確実に進めていく。さらに、教員は学習履歴や取組状況を把握し、児童一人一人の実態に応じた支援や声掛けを行うことで、個別最適な学びの充実を図る。

(3) 授業以外での組織的な取組

①振り返りシートの活用

朝学習や授業で積極的に活用する。既習内容を繰り返し確認する機会を設けることで、基礎的・基本的な知識及び技能の確実な定着を図る。

②夏季学習教室の実施

夏季休業前及び夏季休業中の数日間を活用し、基礎学力の定着が不十分な児童を対象とした学習教室を実施する。

③「柳島学力テスト」の実施

算数：東京ベーシックドリルで前学年までの学習内容の定着状況を把握する。結果をもとに個別指導を行い、基礎的・基本的な知識及び技能の定着を図る。

国語：現学年で学習した漢字の50題テストを実施し文章読解の基礎となる語彙力の向上を目指す。

3 「令和 9 年度 墨田区学習状況調査」の目標

- ・ 全ての学年・全教科の同一集団経年比較で、国の正答率と本校の正答率の差が良好な方向に推移する。(新規)
- ・ 全ての学年・全教科の同一集団経年比較で、D・E層を減少させる。(継続)
- ・ 全ての学年で、算数の正答率を全国との比較で上回るようにする。(上方修正)